

まほらいな市民大学の様子

令和6年11月9日（土）伊那市人権同和教育講演会

『 全盲の僕が弁護士になった理由』

～あきらめない心の鍛え方～ 』

講師 大胡田 誠 さん（弁護士）



講師の大胡田 誠さんは、先天性緑内障のため、小学校6年生で視力を失いました。これからどうなるかと不安の中、中学で出会った「ぶつかって、ぶつかって」という本をきっかけに弁護士を目指しました。4度目の司法試験に失敗し、諦めかけようとしたとき、母親から『迷ったときは自分の心が温かいと感じる選択をなさい』といわれ、人のために働きたいという原点に立ち返り、5度目の挑戦で司法試験に合格。そして弁護士になって感じたこととして、『相手がなかなか心を開いてくれないと感じるときは、たいてい自分が力んでいたり、変に構えていたりするものだ。相手に信頼して欲しければ、まずは自分が相手を理解し信頼することが肝要。人と人との関係は鏡うつしである。』と語りました。奥様も全盲で音楽活動(歌手)をしていて、大胡田夫妻とこども二人の4人家族の生活の様子を記録したDVD(TVニュース)も映し出されました。『こどもたちには将来苦勞をかけるだろうが、人生に立ちほだかる困難から逃げずに、それとうまくつきあっていく私たち夫婦の姿勢を見せてあげられると思う。こどもたちも将来人生を左右するような試練に直面するときが来るだろう。でもそこで諦めずに、勇気を持って前に進んで行くとまったく別の地平が目の前に開けてくる。「無理だ」ではなく「じゃあどうするか」と考えた方が人生はがぜんおもしろくなる。』そして、『相手を思う一つ一つの瞬間が社会を変え、お互いの心を豊かにするきっかけとなる。』と語りました。

学生からは、「大胡田先生の穏やかで優しく、ユーモアを交えて琴線に触れる心温まる講演で大変感動しました。」「自分を必要とする人のために生きる。そうすれば障がいは無関係である。」「“もしダメだと思ったら、それはゴールの手前である。”大胡田先生からくじけない、あきらめない気持ちを学びました。」といった感想がありました。